

解かれない暗号を求めて

宮城県仙台第三高等学校 37-1班

1. 背景と目的

はじめに、私たちは「解かれない暗号」を求めるべく、RSA暗号について研究をしていた。しかし、今日では量子コンピュータの開発が進んでおり、その性能の高さ故、RSA暗号が容易に解かれてしまう問題が発生していることを知った。そこで私たちが目をつけたのが、今、暗号界で注目されている「楕円曲線暗号」である。この「楕円曲線暗号」を深く調べ、有効に利用することができれば、私たちが求める「解かれない暗号」ができるのではないかと考えた。

2. 楕円曲線暗号について

①楕円曲線暗号とは
楕円曲線と呼ばれる曲線で、

それに基づいた暗号のことを楕円曲線暗号と呼ぶ。
この暗号のセキュリティは「離散対数問題（ECDSA）」の困難さに基づいている。

②楕円曲線暗号はなぜ強固な暗号なのか

楕円曲線暗号の強みとして、少ないデータ量であっても計算が膨大になるということが上げられる。RSA暗号で2048bitを使って得られる安全性が、楕円曲線暗号では224bit程度で実現できるように、他の暗号と比べても少ないデータ量で強固な暗号を作ることができる。

楕円曲線暗号をこれほどまでに強固にする要因は、上記にもあるように離散対数問題の解決の困難さである。

（離散対数問題については右で詳しく説明）

3-1 離散対数問題について

まず初めに、離散対数問題はモジュラ演算(mod)を使用して考える。
ある原始根と素数pを用いて
 $r \bmod p \equiv n \cdots ①$

を考える。

原始根とは、3以上の素数pと1以上p-1以下の整数rが
 $r, r^2, r^3 \dots r^{p-2}$ のいずれもがpで割って余り1でない」という性質を満たすとき、rをmod pの原始根と呼ぶ。

Ex.) 素数13の時を考えると、原始根は2, 6, 7, 11である。

また、①において、nは重複しない（同じ値が出てこない）ため、
 $r, r^2, r^3 \dots r^{p-2}$ と一対一の関係になる。そして、出てくるnの値には規則性がないため、予測が困難である。

今、rとpがわかっている状態でnを求めるのは容易（ただ一つづつ計算すれば良い）である（11 mod 13のような感じ）が、pとnがわかっている状態で、rを求めるのは難しい。（r mod 13=3のような感じ）これを離散対数問題といいう。

3-2 楕円曲線上での離散対数問題について

加算について

楕円曲線上での加算については定義されており、2点A, Bについて、AとBを通る直線を引き、残りの交点をx軸を対称とした点をA+Bとする。

このとき、 $y^2 = x^3 + ax + b \bmod p$ の軸の部分は、mod pの部分の影響大きい

楕円曲線暗号では、nを秘密鍵、nGの値(x, y)を公開鍵とした暗号になっている
3-1述べたものと同じように、nが与えられた状態でGを求めるのはコンピュータでも容易であるが、(x, y)からnを求めるのは困難である

実際の暗号では、
nをとても大きく大きい数
を用いて作られるため、
解読がとても困難！

まとめ・結論

今後の展望

楕円曲線暗号や離散対数問題について調べ、それらがどのように関係し合っているかを知ることができた。また、楕円曲線暗号を実際にコンピューター上で使用することができた。これからは今まで調べてきたことを用いて、私達が実生活で用いることができるような暗号の作成をしたり、セキュリティについての関心を高めていきたい。

参考文献

- 1) CentOS8構築・運用・管理 パーフェクトガイド/15-A 楕円曲線暗号
<https://socr-dl-and-idea.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/2021-07-13-02567-CentOS8%E6%A7%8B%E7%AF%89%E3%83%BB%E9%81%8B%E7%94%A8%E3%83%BB%E7%AE%A1%E7%90%86%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89/15-A%E6%A5%95%E5%86%86%E6%9B%B2%E7%B7%9A%E6%9A%97%E5%8F%B7.pdf>
- 2) 【保存版】ECDSAを理解するために！（離散対数問題／楕円曲線上の離散対数問題）<https://note.com/standenglish/n/nf68d7bf8e5e2>